

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	4	島外からの応援によるPR体制の推進	
事業名	①	ふるさと応援寄附金	
担当課名	財政課		所属長名 浦田重利
関係課名	観光商工課、農林課、水産課		

1. 事業の目的						
○今後更なる税収減、普通交付税の一本算定に伴う段階的縮小を見据えた将来の財源確保及び「本町を応援したい」という思いを持っている方から寄附を募り、本寄附金を財源として「つばき香り豊かな海と歴史文化を育む自立したしま」を目指し、8つの政策メニューに沿った事業を行い、活力に満ちた地域づくりに資することを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○本町の寄附制度の周知を図り、寄附を募る。寄附者へ対し本町の特産品を謝礼品として贈呈することで、町のPR及び町内事業者への経済効果を与える。寄附金は寄附者の意向に沿った事業に活用する。				○前年度と比較して、ポイント付与率を上げたことで、より多くの返礼品を選択できるようになり、寄附総額は増加。寄附金を5つの使途、計14事業に活用することができた。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	89,643千円				61,227千円	28,416千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○寄附額が増加したことで地方自治体が独自に行う寄附者に対する返礼品の注文数は前年度と比較して大幅に増加しており、町内事業者の所得拡大、雇用促進等地域活性化に寄与した。				○本制度では全国的に返礼品競争が過熱している一方で、本町では新商品開発等なかなか進んでおらず、遅れをとっている状況であり、継続的に寄附を集めるためには、魅力ある返礼品を開発することが必要である。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○平成29年9月に地方創生連携協定を締結した佐賀県みやき町との間で、ふるさと納税返礼品の相互連携をする方向で進めており、寄附件数及び金額の増加を図ると同時に、本町の製品のPRも実施する。						

担当課評価	A	○寄附を募ることで、本町の財源確保に繋がるだけでなく、寄附者への返礼品制度は本町及び特産品のPRにもなり、情報発信の有効な機会であり、本町へ来町する一つのきっかけにもなり、継続して実施すべきである。
委員評価	A	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	4	島外からの応援によるPR体制の推進	
事業名	②	ふるさと応援団事業	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○ふるさと応援団「上五島カンコロ倶楽部」は、本町に関する情報を発信し、本町の活性化を支援する方の輪を広げ、観光客の誘客と特産品のPRを図る事業。認知度の向上と地場産業の振興を強化していくため、頑張る生産者や事業者等と連携し、ふるさと応援寄附金と連動して一体となった情報発信を行っていく。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○認知度の向上と地場産業の振興を強化していくため、頑張る生産者や事業者等と連携し、特産品のPRを行う。				○会費の2分の1をポイントとして納付者へ付与。 ○年2回（夏・冬）のカタログの中からポイント内で購入。 ○70名の会員に特産品詰め合わせを送付。 ○ふるさと応援寄附金の周知と合わせて連携して、ふるさと応援団「上五島カンコロ倶楽部」の周知を行った。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○本町の活性化を支援する方の輪を広げ、特産品のPRを図ることができた。				○ふるさと応援団「上五島カンコロ倶楽部」の周知徹底を図るとともに、ふるさと応援寄附金制度と連携した情報発信が今後必要である。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○ふるさと応援団「上五島カンコロ倶楽部」の更なる周知徹底及びふるさと応援寄附金制度と連携した更なる情報発信に取り組む。						

担当課評価	B	○会員数を確保でき、本町の活性化を支援する方の輪を広げることに繋がっており、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	4	島外からの応援によるPR体制の推進	
事業名	③	観光物産大使事業	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○新上五島町にゆかりがあり、町外に居住する方で、本町の観光振興に寄与すると思われる方を観光物産大使として委嘱し、町の観光資源や魅力を様々な機会を通して発信していただく。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○観光物産大使に、町の観光資源や魅力を様々な機会を通して発信していただく。 ・名刺や広報を含めた観光情報の送付 ・3年に1回更新				○39名（昨年度より3名増）の大使に名刺や毎月の広報を含めた観光情報を発送し、本町のPR活動を依頼した。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○観光物産大使に、町の魅力を様々な機会を通して発信していただくとともに、本土で開催される観光物産展へ応援に来ていただいた。また、タレントで新たに大使となっていた方には、新しい観光PRポスターの作成や本町へのツアー実施（H28度1回約20名）、うどん天下一決定戦では、応援協力をしていただき、島の魅力を情報発信していただいた。				○本年度は、新たに3名の方に観光物産大使になっていただくことができたが、今後も大使を増やす取組が必要である。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○観光物産大使の役割を明確にしていきながら、大使を増やす取り組みを引き続き行っていく。また、『PR大使育成事業』とも連動しながら事業を進めていく。						

担当課評価	B	○観光物産大使に、町の観光資源や魅力を様々な機会を通して発信していただいております、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。